

昭和三十六年二月二十一日招集

第二面市議會臨時會之議錄

館山市第三回臨時市議会々議録

昭和三十六年二月招集

二月三十一日招集

一現在議員三四名でその氏名次の通り

- | | | | | | |
|----|---|--------|----|---|--------|
| 一 | 番 | 山本 昇 | = | 番 | 脇田 順一 |
| 三 | 番 | = 沢 節 | 四 | 番 | 志村 信作 |
| 五 | 番 | 岩崎 静敏 | 六 | 番 | 鴻 内 繁 |
| 九 | 番 | 吉田 勇治郎 | 一〇 | 番 | 佐 野 信 |
| 一一 | 番 | 川名 秀吉 | 一二 | 番 | 黒川 佐太郎 |
| 一三 | 番 | 長谷川 光江 | 一四 | 番 | 江田 徳太郎 |
| 一五 | 番 | 小林 寛之助 | 一六 | 番 | 石 井 孝 |
| 一七 | 番 | 安沢 徳恒 | 一八 | 番 | 安西 政治 |
| 一九 | 番 | 法木 嗣郎 | 二〇 | 番 | 荻生 四七郎 |
| 二一 | 番 | 浅藤 ゆき | 二二 | 番 | 田中 禄郎 |

| | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 二三番 | 吉田辰雄 | 二四番 | 飯田義男 |
| 二五番 | 鈴木市藏 | 二六番 | 鈴木孝太郎 |
| 二七番 | 田中忠藏 | 二八番 | 加藤良太郎 |
| 二九番 | 遠山ヨネ子 | 三〇番 | 北山茂雄 |
| 三一番 | 田村喜兵衛 | 三二番 | 鈴木孝 |
| 三三番 | 山口幸三 | 三四番 | 松本藤太郎 |
| 三五番 | 山口康 | 三六番 | 嶋貫北作 |

一 議事日程

午後二時十分開議

第一 請願書

第二 議案第三号 館山市職吏給与条例の一部を改正する条例の制定について

第三 " 三号 館山市学校職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

第四 " 四号 館山市委託役収入税の給与及び旅費に関する条例の一部を改正

する条例の制定について

第五

議案第五号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例

の一部を改正する条例の制定について

 η

館山市教育委員 諸給与及心勤勞示



改正する条例の制定について

1

昭和十五年度館山市文庫支出更正予算

昭和三十五年度節市特別會計國民健康保險支出入差追加更正予算

"

昭和三十一年度館山市特別会計と高場六久生追正予算

1

第三十五年度館市特別會計休養施設入支出更正予算

 Springer

昭和三十一年度館山市特別会計公債質屋入又他追加更正予算

一、法算百三十一條によるお席説の圖

妻 田村利男

段小武男

役 免 戸 貴

課長山口実

秘書課長 山本潤和

商水産課長 羽山房雄

養産院計課長 吉田耕一

保険課長 神作啓次郎

厚生課長 伊藤幸太郎

福祉事務所長 長谷川玄治

建設課長 新井重助

教育課長 工藤和平

庶務課長 鶴沢寛寛

一本議會、事務局長書記および職員

事務局長 高梨清一

書記 太田博雄

職員 兵庫恭一

同 山口清之

一出席議員三三名

一欠席議員一名

三五番 山口 康

一本日の会議に付ける事件

。議事日程に同じ

議長 山本 昇(君) 本日の出席議員数三三名 此れより第一團市

議会臨時会下開会いたします

本臨時会へ議案説明のため田村市長小出助役宛戸

収入役 山口課長 山谷課長 羽山課長 吉田課長

神作課長 伊藤課長 新井課長 長谷川所長 工藤教

育長 鶴沢課長 以上の出席を求めましたので御報

告いたします

この際御報告を申し上げます

去る二月二日船橋市におきまして県下八市の議長会
が開催されました。当市より正副議長出席いたし
て提案の議案を慎重に審議いたし、その議案
を更に三月七日神奈川県におきまして開催され
た第三回関東市議会議長会理事会におきまして
これに満場一致決定いたしました。

議案はお手元に配付いたしまして通りでいずれも
が処置につきます。これは正副議長において適当な方
法により処理いたしますことにより、たゞ以上御報告
申し上げます。

合せてこの際、この関東議長会理事会におきまして全国
議長会、国会対策委員会、委員長より報告がありま
す。このことより御報告申し上げます。

全国市議會議長会の中に国会対策委員会ができています。

てこの委員長は野田の議長かやっております。この
委員長から全国議長会として周下行なっております活躍
状況につきましての御報告がありまゝなりでそれを
簡単に申上げます。報告はまづございまして一つの
減税対策、これはいわゆる今回の三六年度の予算に
おきまして減税をします。一かゝるその一々寄れを
地方へ及ぼさぬようにというふうな意味におきます
減税対策のことばでございます。オニの後進地地域の開発
の問題でございます。この問題につきましても積極的
に活躍しておる。オニが地方財政の拡大強化、いわゆる
地方財政を三百億円を増額してほしいという要望を
強く打ち出しておる。うでございしますが結論的に
みますと六十億の増額に終ったというふうな報告で
ございます。オニが国民保険の問題と国民年金の

問題でございます。この事業費並びに事務費を
全額国庫において負担しては、いいというふうな強い
議長会としての要望をいたしまして、結果、それがさうに
考究するといふような結果になつたやうでございます。
次に、先きの地方公務員の共済制度の確立でございます。
これは特に議長会として力を入れまして、奮力に推進
したわけでございますが、その結果、むづかしくも三六年度
において実施いたらないという要望の下に、運動したので
あります。結論的に一年延期という事になりました。
一年後には実現の明るい見通しがついたかやうな
報告がございまして、たゞ合せて御報告いたします。
議案を配付いたします。

配付兩れでございます。——配付兩れなりと認めます。
會議録署名員の決定を行います。

本臨時会の会議録署名員に二番議員 脇田順二君
三番議員 嶋貫壮作君、以上両君を指名いたします
これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(山本昇君)

御異議なしと認めます。よって決まりました。
会期の決定を行います。

本臨時会の会期について議会運営協議会の意見
は本日一日ということであります。

おぼかりいたします。

会期を本日一日と定めますことに御異議ござい
ませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(山本昇君)

御異議なしと認めます。よって会期は一日と決定
いたしました。

本日の議事はお手元に配付の日程表により本日の
行います。日程に先立ち市長の本臨時会招集
の趣旨説明を求めます。

(市長 田村利男君登壇)

・市長(田村利男君)

本日ここに昭和三十六年第二回臨時市議会を招集
いたしまして当面緊急を認められます案件の
御審議をお願いいたすことといたしました。本日
上程いたします議案は昨年一月一日から実施と
なりまして国家公務員の給与改定に伴いまして
地方公共団体においてもこれに準じ早急に給与
の改定を行うようにとの自治省からの達しに基づき

して特別私並びに一般取員及び各種行政委員会委員の給料及び月額報酬額を改定するため関係諸条例の改正とそれぞれ関係いたします予算の追加が主体となっております。各議案の詳細につきまゝてはそれぞれ議題に上程せられた都度担当課長から説明させます。この際その概略について申し上げます。議案オニ号 館山市取員給与条例の一部を改正する条例の制定について。

議案オ三号 館山市学校取員給与条例の一部を改正する条例の制定についての二条例は市の一般取員及び教育取員の給与改定を国家公務員に準じて行うべくそれぞれ内容の一部改正をけうとするものであります。次に議案オ四号 館山市長助役収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の

制定について

議案第六号 非常勤の特別取にかかわる報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第六号 館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定についての三条例は一般取の給与改正に伴いまして市長以下三役と教育長並びに議会議員をはじめ月額報酬を受ける非常勤特別取の給与改正を行ふためそれぞれ条例の一部改正をしようとするものであります。

次に議案第七号から同第六号まで付される条例改正によりまして追加を必要とします。各会計別の追加予算案であります。財源調整には極力

歳出の更生を行なつてこれに充てるよう配慮
いたしまして、一般会計の人件費につきましては
改正による増加額は総額で約八百五十七万円と
なりますが、このうち約四百七十二万円は歳出の更生
財源をもつてこれに充當いたしまして、歳入^{入不}不足
額は三百八十五万円となり、同額は交付税財源をもつて
充當することにしていたわけでございます。

次に昨年第五四国会におきまして、地方財政法の一部
改正法律が成立いたしましたので、ございますか、この際に
地方公共団体の財政運営上の長期的計画性という
点が強調されて、従来の財政調整積立金に関する
規定が強化され、昭和三十四年度決算上の剰余金から通用
されることとなりまして、こので本市におきましても、去る二月
の定例市議会におきまして、積立金条例の議決を

終まりて關係規定の整備をいたしまして昭和三五年
度決算見込が額につきましてもほぼ見通しがついて
参りまして、この際これら關係規定に基く
積立金一千万円を新に計上いたしまして法律の
趣旨に即つて翌年度以降の財政調整に備える

ことといたのであります。そのほか若干の追加更生
を合せまして一般会計の全追加額は一千四百二万円
と概したわけでございます。これが財源といたし

ましては、地方交付税八百五十万円のほか、市債
四百五十万円、国、県支出金百十二万円の追加に
よりまして一般財源の肩替りを行い、これを充て
することといたしたのでございます。以上

概要について申し上げまして、最後に御審議を
願うこととなつております。高等學校に關する

請願の件を合せまゝていづれも緊急を要する
ものと認められますので慎重御審議の上より
御賛同賜わりますようお願いいたします。
ご挨拶にかゝる次第でございます。

。議長（山本昇君）

日程第一請願書を上程いたします。

（書記朗読）

請願書

（二〇番議員 萩生田七郎君登壇）

。二〇番（萩生田七郎君）

簡単に本請願書につきまして紹介議員である
小林寅之助君、松本藤太郎君、鈴木彦太郎君、
御三君の御了承を得まして趣旨を普遍的に御説明
申し上げまして皆さまの御了承を賜わりたいと

思います。

館山高校の県立移管問題は、内容等はこの請願書
 においてつまびらかに記載されておるのでございます
 が本問題は約一〇年前において市会の協議の際の
 席上と記憶いたしますが議題に上ったのであります。
 当時賛成意見と時期尚早の意見に分れまして
 遂に実現をみなかったのであります。すなわち
 請願書としての提出をみななかったのでございます。
 爾来年移り月変わりまして今回いよいよ期が
 熟しこの館山高校が産業総輪高校としての完璧
 を期すべくここに同窓会あるいはP・T・Aあるいは
 雇用者会等がいちゆる総員が結集して本請願書が
 提出されたのでございます。

私は館山高校の関係者がここに内容充実、教育の

機会均等の立場から踏み切ったことに対して敬意を表するものでございます。

御存じのようにこの館山高校の運営につきまゝては収入、支出差引をまゝして年間六、七百万円の市費が投入されておるのであります。しかもこれが教育を受ける生徒の分布状態は安房郡下全般にわたっておるのであります。すなわち実質的には県立高校の性格をおびていと申しても過言ではございません。

私はこの際県立に移管を実現して一方において内容の充実あるいは設備の充実あるいは人事の交流等々正はかつていわゆる館山高校の有終の美を飾るという。教育界の総合産業業等高専高校としての内容を完備ならぬもの、という趣旨の下は本請願書が提出されたと思うのであります。

内容につきまゝでは大体御了承のことと思つては
あります。が、同僚議員各位におかれましては
御承、御賛意賜わらんことをお願い申し上げ
まして、簡単でございす。さうか、本請願書提出趣旨
の普遍的説明といたします。さういふ願ひ申し
上げます。

議長（山本界君）

以上で趣旨の説明は終りまゐた。

御質疑願ひます。

本請願書を採択することに御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本界君）

御異議なしと認めます。さうして本請願書を採択
いたします。

採択されまゝに請願書は議長の手元におきまして
市並びに教育委員会の方に送付いたし、まして適当
なる処置をお願いいたし、その御承願します。
日程の変更につきまゝしておわかりいたします。

議長（山本昇君）

日程オニ乃至オ六を一括して議題をいたしたいと
思ひますか御異議ありせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）

御異議なしと認めます。よつて日程は変更され
まゝに。

それより議案オニ号乃至オ六号を一括して議題と
いたします。

(書記朗読)

議案第二号

館山市職員給与条例の一部を改正する
条例の制定について

議案第三号

館山市学校職員給与条例の一部を改正
する条例の制定について

議案第四号

館山市長、助役、収入役の給与及び旅費
に関する条例の一部を改正する条例の制定
について

議案第五号

非常勤の特別取の職員に係る報酬及び
費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
の制定について

議案第六号

館山市教育長の諸給与及び勤務条件等
に関する条例の一部を改正する条例の制定
について

○議長（山本昇君）

議案の朗読を終りました。

暫時休憩いたします。

三時一五分

休憩

三時三〇分

再開

○議長（山本昇君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいまの出席議員数 三三名

議案ヲニ号乃至六号の説明を求めます。

○秘書課長（山谷潤君）

給与条例改定のうち教育委員会に属しております。

三号議案と六号議案を除き、三議案につきまして

御説明申し上げます。

二号議案は館山市職員給与条例の一部を改正する条例でございますが、この一般職員の給与の改正につきましては昨年の一月一日に閣議におきまして地方公務員の給与の改定について研究したところ、その際に国家公務員についても人事院勧告の趣旨に沿って給与改定が行われるものと考えるが、その場合における必要な財源については適当な措置を考慮するものとするということでありまして、その当時から地方公務員の給与も改正になるものだとした財源の方も国がみてくれるのだというふうにと喜んでおったりでございます。その後全国市長会の方から速報が参りまして自治庁から各都道府県の総務部長宛に給与の改定について

通牒がでている。その通牒の内容というのは「國家公務員の給与改定に伴う地方公務員の給与の改定については去る一月三日付各都府県知事あて自治大臣官房長官名をもってあらわじめ連絡したところで

あり、各地方団体の現行給与制度における給与水準、給料表の構造等についてこの際根本的に再検討を加える必要があると認められ、そので別記のような取扱いをするにいたるべく存じます。ところが、このようにな交書が来ており、この別記とは給与改定の基準方針と一まゝ一般職員の國家公務員の俸給表の通り給料表を改定する。今までは地方公共団体は國家公務員の給料表にその市によって幾分の相違があります。ゲタばきをさせたりまた最高額の何階級かをつけて給料表というものを作っておったのでござい

ます。いつまでもそういう方法をやっておったのでは今後給料表が改正になるたびごとにえらい手数がかかる。

また相当困難を来たす改正であるからこの際

国家公務員の給料表の一部をそのままでしてもらいたい。

この一部というのは国家公務員では一般行政取は。

一等級から八等級まで分れておるのであります。

地方公共団体、県は別でございますが、市の方としまして

は給料を五つに分ける場合には市の一等級は国の

四等級を^用關する。市の一等級は課長でございます。

市の課長補佐二等級~~主任のものは~~は国の五等級の

給料表を用いる。市の三等級主任のものは国の六等級を

用いる。このように国の四等級以下を、そのままの給料表

を市の一等級以下にあてはめる。そういうふうな通知が

あったのでございます。それから二番目は期末手当の

増額分及び初任給の調整手当の新設を行う。

これは初任給は特殊の関係がありますので調整ということはありませんが、期末手当の増額につきまゝでは先般これは条例にかかわらず特例を設けまゝで一〇〇分の一八五と特例がでておりますので、今回は期末手当の増額分の改定はいたしません。

それからこの二つの改定は昭和三五年一月一日から適用すること。

特別取の給与については別に示すところによること、こういう通知があったのでございます。

その後これだけでは切替給料表というのばかりかもしれませんが一日も早く県の方から指示あることを待つておつたのでございます。それが一二月の中端すゝ下旬に近い頃に県の方で給与改定について千葉でもって会議を開く

その時出席一概ののでございすすが自治省の公務員課
 から係員が参りまして説明一たのですが、果の係員も
 われ／＼と一てもどうも一回だけ聞いただけでわけがな
 いずれ細かいことは指示あるだろうといふことござい
 まして、果の方でも本省は國家公務員と同じように三月
 中に改正一てもらいたいのたこういふことになつてゐるが
 市の方と一てはどさも、それまでは午がまわらないたろ
 うからでき得るだけ早く改定一くれ、どういふふうな
 話一だったのでございす。それで私と一まして
 その関係員を果へ出張させま一たり、果の方から
 こつちに来てもらつたりして折衝を数回重ねまして
 一月の二十六日にはじめてこういふ方法でやれば正一の
 だといふことがはつきり一たのでございす。そのために
 この提案を本日まで延~~ば~~一ておつたやうなわけだ

ふろに改正するのであります。

昇給させる。こゝに改定するものでございます。

別表第一給料表を次のように改める。

これは今までの給料表は先ほど話一まゝのように
 国の給料表にゲタばきをさしておいたのでござい
 ます。例えば五等級では四つ低いものから始ま
 りまして三つ上の方にまでいってあったのでござ
 います。

なおそれに国と違ふ点は昇給期間にも違ひあり
 ます。たゞそれと今度この国の給料表にあては
 めるわけですが、そのあてはめ方におきま
 して細かい条項があります。これがこれは西
 せするに切替ふ方をくわしく言葉に現わした
 ものでちよつと何の意味かわからぬのでござ
 います。

簡単に申しますと今まで五等級の五号で
 すがこれを国の五等級の一号にするわけ
 でございます。これを給料表の八千
 百円のところはどこかをさか
 して五等級の八千百円は今度の一
 号だということになる。

のでございませう。それで新しく発会する評会は五等
の一号という条例が登会にならうございませう。

それでは今までのように下につけておるのはどうなるかと
申しますと六千円の人か七千三百円になるのでもございませ
う。これは号給表にはございせんのである期間特号
というものをいします。これは果の方に各会議の時に
かゝる質問がありましたが特号やむを得ない。一挙に
最低の号級まで下するとは財政上も不可能なことだし
また二年も三年も早くいる者と一年しか勤めない者と
同じところによつてとめようといふこともよくない。
この特号というものはだいて差一つか二ない。こういう
ことでございませう。そのためにこの給料表にのりましても
自分の間は五等級で八人でございませう。

新給料表にのりまして本市雇員の平均ベースは

一万九千六十八円にのります。これは一般取だけでございます。今までは一万七千五十二円であったので二千十三月の平均のベース・アップになります。寧ろで申しますと平均給与のベース・アップ分は二・四%の増額をやったのでございますが、館山市市長助役、収入役の給与及び次に議案第四号 館山市市長助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について、これは本文の内容は全然変更しませんか、別表第一月額給料表との改正でございます。この三役につきましては、国家公務員の給料表、われらの今使っている給料表にはありません。給料額でございますから、一心国家公務員の給料表にあてはめまして、それでもってベース改定した場合それをやまいて、なおそれに一号昇給にらむどの程度になるかということ。

ヲ附して、その一号昇給というのは我々一年一回
昇給でございますが御承知の通りに市長、助役
収入役の特別取につまましては条件で改正すると
一たん条例で定められますとその後改正しない、その
ままでも更給するものでございまして、これを一号
と仰てみたらどうか、そういうふうにしましてはお
それを館山市とほぼ財政事情の同程度市等
比較に則しましてこれなら適當だという線で、この
額に改正しないというものでございます。

それから、次の第五号議案非常勤の特別取の取員
に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を
改正する条例、これも本文は全然改正しませんで別表
第一表の月額報表、この部分だけを改正しようとし
するものでございます。これも他市の特別取の報酬

を参考にいたしましてこの案を作成したものでございまして。特に進学管理委員会の委員、この委員長と委員の報酬につきまして、これはあります。館山市だけ、他市と比較して低かったので、その点は大幅といたしまして改正いたしました。大体以上のようなお方針で改正したのでございます。よろしくお願いいたします。

。庶務課長（鶴沢貫寛君）

議案第三号につきまして御説明いたします。

これはただいま秘書課長から説明のありました。一般取の取員と同じように学校取員も一〇月一日から給与改定をいさうというものでございます。

館山市の学校取員の該当いたしております取員は、館山市高校の取員と幼稚園の取員でございます。

渠立高校の職員、小學校の職員、の給与改定を一月一日にさか上りて行いますのでそれに準じましてこの条例を改正したわけでございます。

才六条の改正、これは初任給の一部改正でございます。それから才一二条というのは昇格でございます。昇格の才一二条才三号中「昇給した」とあります。これは「昇格」の誤りでございますので御訂正願います。四号中「昇給の額のうちにならない」とあります。これは「手給のうちにならない」とございますので御訂正願います。それから才一三条は降格の一部改正でございます。一四条は昇給の規定でございます。そのうちの五号の二は昇給期間の短縮についてでございます。かゝるを一部改正いたしました。

才八条は給料表を異にする異動の場合の条項で

ございます。これから一〇まで改正されまして。

それから一七条の初任給の調整等と云うのを新しく設けたわけでございます。それから別表二の一から一の三まで、これは給料表の改正、これは国、県に順じた同じ給料表でございます。附則は、この切替えに当ります。細かい措置の条例でございます。

次に第六号議案教育長諸給与の改正でございます。加へれば今まで教育長の給料は、館山市取員の給与条例の一等級の中で教育委員会がその額を定めると云うふうになっておりまして、それでは適当でないといふことで、今回五段に準じまして、ここにはつきり額をうたげたわけでございます。今までには四万八千円でございますが、これを今後五万二千円に改めようとするものでございます。ベースアップの

予算は一三・九％幼稚園が一三・九％でございませう
のび申し添えます。以上であります。

議長（山本昇君）

議案第二号乃至六号に對しては御質疑をお願ひ
いたします。

三番（黒川佐太郎君）

一般財のベース改定によりまして予算が相当膨張
すると思っております。これに對して國の助成と申します
か、補助金と申しますか、金額がくるんですか。そういった
のびですか、あるいはどの程度にするものであるか。その点
と第二点は今後の見通しですね。助成の見通しと
いうことと、もう一つは従来昇給期限がきても財政上
やむを得ずストップさしてあった。これはどうも感心
しない。次では正しいのびですか。今後それに対する見通しは

どうか、第三点は特別取でありますか、これを理論的に求めるといふのは至難な問題でいていろいろ取捨の重要度とかあるいは財政規模だとか、人口とかいろいろなことかへってくるのでありますか、今お諮りになった財政とか予算とかそういうものの類似した市を参考にしてということですが、これは全国の比較ですか、関東ですか、あるいは県下のと比較したのですか、県下であったらどこどこを標準にしてたか、この三点をあきらかにいたします。

。助役（小出武男君）

ただいまの御質問についてお答え申し上げます。第一点の昇給財源の問題でございますが、最初秘書課長から申し上げましたように今回のベースアップは交付税財源をもって充てんとするということとを建前に

いております。今回昇給所要財源は八百五十七万
でございますが、その他計算の基礎として一般交付税
として計算上でございます額が六百八十一万でございます。
あつとそこに二百万ばかりの差があるのですが、これは
特交財源を充て財源に考えております。今年度
の特交はまだ確定いたしませんか、大体昨年は
百五十二万の実績があつたのでございますが、本年の
予想としましては大体五百八十万を予想いたします
ので、その足りず分は特交財源の一部をもつて充て
すれば、今回のベースアップは全部交付税をもつて充
ててさらに若干の余裕があるという計算にたつて
おります。それから今後の問題でありますか、これは
政府の方針といたしまして一般交付税財源を主たる
財源に充てるといふ建前には変更ございまいと

思いますか。ただ全国的にやりますといわゆる地方の
 税の伸びとか、自主財源の獲得というふうなことで
 若干の甲乙はございますが、館山市のごとく自然増
 の伸びが少い自治体におきましてはやはり交付税
 財源にはその分だけ余分に配分されるのではないかと
 いう見通しは十分ありますので、今後の問題も一応
 その線で心配ないというふうに考えております。
 それから市三島の従来昇給者にストップしておいた
 のは、市からんということでありますが、これはストップ
 と申すよりも諸し合いで出発したのでござい
 ます。昇給者に二万円以上の人に対して三ヶ月間
 だけ延長をもらって、その分だけを低額者の
 昇給分にやわす、こういうふうな考えでやっ
 ておりまして、これは事実でございます。今度

一年という基準がござるまいかと、これも一年に必ず
とすると、このことが原則かどうか、これは疑義が
あるのございまして、正當に勤勉に働いた者は、一年
たてば上げる資格があるということに解釈したいので
ございますか、これは今後の運営におきまして、あまり
ごた／＼のないように運営したいと思ひます。

それから特別雇の決定でございますか、これは
先ほど申しますように、これが決定は基準がござい
ませんので、非常に考へたりでございますか、各市の状況
と申しまして、これもこれは非常にまち／＼でございます
ので、市としましては一般雇が國家公務員の
給料表に切り替へられまして、特別雇も該表給料
をとつてあてはめて改正ということにしたいので
ございまして、これはどうして改正か、いいか悪いかと

いうことは別問題でそういうふうにする方が一番よろしいじゃないかと。こう考えるわけでございます。さらにこれについて、その結果について類似の市も若干参考にしていただのでございます。一番近い木更津を例にとつて申しますと木更津が従来市長は六万円でございます。今回の改定で八万円になつております。

。秘書課長（山谷潤起君）

大体こちらの方で比較した市というのは木更津、松戸、野田、佐原、その程度でございます。それとまあ昇給率とかそういうものをみる場合には市川で、あるとか船橋であるとか、そういうところもある程度参考にしていただ。果内だけでございます。

。二〇番（萩生田七郎君）

今秘書課長さんの御説明にふりまゝで大体了承
しつゝ、原案に賛成するものであります。一に
御質問申し上げたい。たゞいまの御説明にふります
と、これからの昇給は國家公務員法になつたことを
やるとその結果従来に比して昇給期間が短縮され
た人件費も膨大に増大する。従つてこれから市の
財政負担ということも容易でないと思ひます。そこで
次の質問を簡單にしたいのです。國家公務員法に
ふりますとすべての職員は全体の奉仕者として
公衆の利益のために勤務する。また勤務遂行上
全力をあずて、これに専念しなければならぬ。
それに男やの別はないといふことが銘記されてゐる。
そこでお伺いしたいのは六カ村の合併当時のきわめて
アンバランス加その後着々是正されつつあると聞いて

おりますか。現職の段階でこれが完全に是正された
 かどうかあるいは未完成情况の事で、今回アップ改正を
 したならばその実には多少の不公平のザリーを免かれ
 ないと思うか。その点如何、オニ氏は今回平均しま
 して二十二年のアップと説明があり、これか。これを
 スライドする場合、ゲタはきの下にスライドしたか。
 そうだとすると、その結果不公平の昇給と相なる
 のではないか。というふうな懸念心もあるのですか。
 その実如何もう一つは今回アップが大幅に行われる
 のでありますか。御存じのごとく本市におきまして
 は公平委員会を設けておる。一かーこの委員会は
 一回も会合を開いていない。開かないほど結構だ
 と思うのですか。今回のアップにつきまして市の職員
 組合の意向やこれを見参照してこの案案を定める

御参考になりましたかどうか。その点をお伺いしたい。
それから関連質問であります。臨時雇員の数はどの位あるか。これは半年更新ということになっておりますか。一年以上勤務しておる臨時雇員がいますか。その点、それから臨時雇員は優先されるか。これは国家公務員法に銘記されておるのであります。しかし本採用の道が試験以外にはないといへないと思つておりますか。こういう点についてどう処分されているか。また雇員は全力を傾注して公衆のために奉仕しなければいけないのですか。そこで目下他に私業をもっている吏員がおりますかどうか。もしあるとすればどういう方々がこの国家公務員法に準拠してこれに合致するようなものであるかどうか。以上の点につきまして御答弁願いたい。

・秘書課長(山谷潤組君)

この給料表作成につきましてその後において合併した職員の給与のアンバランスが是正されたかということでございますが、これは旧村の職員と旧市の職員の給料のアンバランスのままでなく旧村同志の間においても相当のアンバランスがみられる点があったのでございます。その点職員組合からもそれを調整正してくれという話もありました。なにより給料を下げるわけにはいきませんからできるだけ低い者へ上げてバランスをとっていきたいと努力したのでございますが、一方において低い者を一定のレベルまで上げるといふことは財政上できないことでございます。現在それでは正しにものかひきあえるかといふことでございますが、現在もまだ

若干均衡を以ていつる處かやられるのであります。しかしこれは見方によりまして形の上だけやますと不均衡ですがお分析しますとその当時の職員採用当時の市の財政状態それらが相当影響しておるのであります。財政が切迫している時にはこのままでは人件費の増嵩を来年度にしようから今年度は初任給を低いのを採用しようじゃないかと又ある時は財政状況が緩和してきたからある程度の今までの初任給を上げて採用しようじゃないか。そういうふうな方法をとってきたために現在になつてやますと採用当時の財政状況がかわわいて差がわいておるのであります。けれどもある程度是正してきたのであります。

それから次に職員組合から今度の改定につきまして
 して申し入れがあったかどうということですがそれは
 ありません。これは正式か非公式かわかりませんが
 市長まではいかないのですか助役と私が聞きました。
 それから臨時職員でございすか現在六ヵ月未満
 のものは七名おります。長期にわたる者として
 三四名おります。この中には一年以上のものが一三名
 それから三年以上の者が四名おります。それから
 臨時職員の本採用の道が開けるかという問題
 ですがこれは市の方で職員採用試験を行います
 場合には事務の臨時職員には全部通知いたしまして
 受験希望者はどんく受験されております。

それから兼職の問題は私は個々において検討して
 みたことはあります。しかしながら個人的会社その重役

二人位ありますか四名位かと思ひますがちよつと
けつりゝの数字はありせん。

。二の番(秋生田七郎君)

今の御答弁で大體了解いたしてゐるか臨時職員
の問題ですか一年以上か一三年あり三年以上か四名
あると臨時職員というものはいわゆる一年まで
半年ごとに更新である。それ以上は更新であるとい
うふうで公務員法に銘記されておりますか
地方公務員法の規定を聞いておるのですか。

一 負山寸譜全

・秘書課長(山本潤次郎君)

私の解雇は六ヵ月以上が臨時雇員とみなせるとさう
いうふうに考えております。

・三番(萩生田七郎君)

当局の非をせめるのいやなのですが、やはり臨時雇
員というものは六ヵ月ごとに更新する。もう一回の
六ヵ月更新で一年以上の更新はできないと、
それを三四名使っておるといふところにもう少
研究の余地があるではないか、市長の権限で採用
できるから、さういふ便法があるのではないかと
いうことを私は聞いたのです。以上

・四番(松本藤太郎君)

ミミお尋ねいたします。人事院の勧告で国家
公務員の給与の改定は昨年より新聞紙上その

他で書かれております。

これに伴って地方の公務員が交付税によってこれに
 やるといふふうになつたのはごく最近聞いただけです。
 今回のベース・アップは三・四%ですか、先ほど説明があり
 ました。館山市は二・二%である。こういうことではござ
 います。これはゲタばきというけれどもセシタのなんか
 はかせてしまつた下の方にもつてきたのかどうか
 総額から今回の必要財源から推定すると二・二%
 というと約八万数千円にもなる。この昇給は雇員の
 中に入っていくべきものでなかつたか。

こういうふうには考えられませんか。一番低いところでは
 千三百円多いところでは一万円と厚下りの疑問は
 あるわけではございませんか。先ほどのお話しでは、交付
 税あるいは特交によつてまかなうということまでいい

れておりますが、どうして普通の平均より下まわ
ったパーセンテージになつてしまつたのか、この点一つ
お尋ねいたします。それから今回の更正で約四百
七十五万ですか、更正するという様な市長さんの御
説明ですが、これは交付税という様なものが更正さ
れておるのか、あるいは今年度の当初予算におそ
節約したところの費用なりあるいは必要経費なり
そういうものにしめ寄せされておりはしないかとい
う懸念があらうか、びましたので、総括的であらう
しうござりまするが、お答え願います。

次に平年度において約千七百八十万円の給付改定に
よつて膨張があるように思われますが、これは先ほど
も御説のあった様に交付税によつて完全にくるとい
うように解釈してよろしいかどうか、それから

最後の教育長の条例でございますが、お二条を次の数、青森に改めるとなっておりますが、現在のオ二条というのは、どういふ文句がうたっておるのか、予ことに恐縮でございますが、教えていただきたい。

以上四点についてお尋ねいたします。

・秘書課長（山谷潤昶君）

お一向にお答えいたします。他市は三・四％の増額であるのに、館山市は二・三％のアラフはどういう理由か、こういう御質問のようですが、私の方では御承知のように、今回の給料の改定は下り者より上の者ですが、率が多いためあります。今までの給料と改定後の給料を比較してみますと、国の一等級の一号で三割四分の増額でございます。

私の方は国の二・三等級は用いておりませんので

国の四等の一号これは一割五分最も多いところで
国の四等級館山の一等の九号で一割九分が最高
でございます。以上の様な関係でございます。
次に今度の財源に充てました人件費でございまして、
四百七十三万位あったのでございます。

これは一〇月頃すでに給与の改定がある。そういう
活がありましてたので更正できるものは更正して
しまふのでございます。その為に三月の賞与の追
加も追加する部分は追加して更正する部分は
更正し、うと、又、退職も市役所の払賃費で、六名位
あったのです。清掃費の方で一名そういうもの
がありましてたが、退職手当は従来なら退職手当の
訂正の場合には、人件費を更正しまして、そうして
退職手当を追加する。こういう建前でございます。

が今回はたまたま今年の子算編成後に出張所が
廃止になりましたので、その宿日直手当が相当余す
りましたので、それらを更正いたしまして退払手
当に充てましたので、人件費は相当残っておったので
ございます。

それに本俸に付随して
期末手当とか又、恩給共有組合の掛金、それらも
相当残っておるのであります。

なお三十五年度は新規採用をいたす予定で
相当残すお積りしたのでございす。三十五年に
は新規採用いたしませんので、その分も余剰が
でたこと、それから各課にわたつたもの更正で
おのりおなるものは超勤でございす。

超勤は各課長の方からござるだけやら、
いくということ、これらも相当余剰がござるので

す。す。す。す。す。

なお今回の更正に對しましては各課に對しまして連絡いたしまして必要分だけ残しましてあと更正したと、そういうわけで相當の更正ができたわけでございます。

助役(小出武男君)

ベース・アップによる給与の増加は平年度にあり、
一千十百万位大體推定であります。この金額につき、
まゝ金額交付税でやうれるかという御質問だと
思います。これは平年度におきましては、やはり金
額をみるということとは積算上無理だろうと思つて
と申しますのは、交付税そのものが計算をいたし
まして、おき上るものかでございますから

やはり使用額の何パーセントということになる

思います。一、もと本年度は先ほど申しました
ように交付税で一応充てられますが、平年度に
おきましては一般財源の伸びがあれば交付税も
減るということになると思いますが、館山市のごとく
一般に伸びないところにおきましては想定どけ参る
ということを考えます。従いまして金額交付税で
やるということはいえませんが、ことを御承知願います。

庶務課長（鶴沢貫寛君）

教育長指給予勤務条件等に関する条例第二条
を朗読いたします。

「教育長の給料額は、館山市職員給与条例五才条別
表第一給料表甲一等級の範囲内において市教育
委員会がこれを定める」

三 四 番（松本 藤太郎君）

平年度において交付税でまかなうというのとは一般
私のもとは完全に消化する。このように解釈して
いかどうか、又それより上回って特別私の幾らかは
みてもらえらるというふうに考えていかどうか。
それからいま一つ臨時で働いている方があります。
やはり雇用の契約によつてやつておると思ひますが、
そういつたような方に對しての給手はどのようになつたか
これをお尋ねいたします。

それから教育長さんのこの条例ですが、これは教育本
員会で定められてゐる。一等級の何号俸であるか、それと
出てゐる様に条例改正にもうきいたか、このことにつら
いますか。親切に御説明願ひます。

。秘書課長（山谷潤祖君）

臨時雇員の給手につきまして、これは来年度は年度当

初におきまして、一割五分位増したいと思っております。
助役（小出武男君）

人件費の件でございますが、これは交付税の基礎費、
料には一般取扱いではなく特別取扱い、その他行政
委員会の委員、これも含めまして交付税の需用額
の算定の基準になっております。従って一般取扱
全部まかなえるというのではなく、やはりこの比率が
ございまして一般取、特別取を含めまして計算
されております。金額は交付税でまかなえると
いうことはいいきれない。こういうことでございす。

庶務課長（鶴沢貴寛君）

教育長の給料は現在一等級の四号俸で四万八百日
でございます。これを今度直おろして、たのは各市
の教育長は給料を参考にした。ま、たところ大体の

市が条例に銘記してございますので、この額を定めるには三役との均衡というものを考慮いたしまして直したわけでございます。

・番首(松本藤太郎君)

大体交付税の場合にいつもどの位くるかわからない。

なるほど市の全部をまとめようという需用額というふうなことでパーセンテージでくるからわからないということになるかもしれませんが、やはり専門家のすばあさうのその役入と話をした場合に実際にわからないということではやむを得ません。今も教育長さんの点についてもそうですが、こうなつておるからということだ。それから市長さんの点についても、市より規模の小さい市においてもやはり原案よりも高額のところもあるように見受けられる。しかしこれは他市と比較する場合に

金額のみを此額とするのであつてはならないと思ひます。自治体は主権者である住民に對しての考えが、一つあり、二つあるか、どうか、というところに問題がある。と私は思ひます。

そういう点において、今後、交付税でも、金額がかならないということも、明らかに、以上、将来、交付費、なり、食糧費、なり、消費的、な経費の節減、ということに、一、つ、意を用いて、いたゞいて、自治体と、して、り、本領を正しく、もつて、いきたい。この、よう、に、私は、考へて、おひます。

予、當局も、世に、ひ、り、様、な、考へ、方、で、や、つ、て、いたゞきたい。こ、う、確、信、し、て、原、案、に、賛、成、す、る、も、の、が、あ、り、ま、す。

。議長(山本昇君)

一指上程いた、ま、す。一、た、議案、を、二、三、乃至、六、号、

討論、を、省略、原案、通り、決定、いた、ま、す。に、御、異、議、

ございせんか。

（「異議な——」と叫ぶ者あり）

・議長（山本界君）

御異議な——と認めます。よって原案通り決定いたしました。

暫時休憩いたします。

四時三十分 休憩

四時五十分 再開

・議長（山本界君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程第七議案第七号を上程いたします。

（書記朗読）

議案第七号

昭和五年度館山市歳入歳出

追加更正予算

。秘書課長（山谷潤祖君）

議案第七号歳出の方から御説明申しあげます。議会費百五十万四千四百五十円の追加は給与条例改正に伴う人件費の追加でございます。

市役所費百十四万三千八百十円を追加いたしました。このうち千七百四十万四千七百円は人件費でございます。

こういうふうには各款にわたって人件費の追加訂上をいたしておりますが、これを全部まとめると申し上げますと、このたびの改定によりまして必要な額は八百五十九万六千円でございます。大体新買入予算の中で流用の方でござるものは流用いたしました。今回予算に追加いたしましたのが三百八十五万と

追加訂上いたしました。

。福祉事務所長（長谷川 広芳 君）

八款社会及び労働施設費として人件費以外に追加
といたしましてたのぐ御説明申上げます。

三項の児童福祉費として委託料が八十九万五千円
訂上いたしました。それは昨年保育所に委託し
ておりました。子供に対する経費の改定がございま
して総額で八十五万五千円不足とする予定でござ
いますので追加をいたしました。この財源として
歳入に訂上げてございしますが、国の補助金、県の
補助金それに個人の負担を差引ましてその範囲
内の額を訂上してございます。

保育所費におきまして需要費として消耗品費、
五千円、食糧費で十二万円子供のおやつ代にございす。

一 負山寸 金

これは 年間の不足額 一〇三円という金額でイッテ不足
とする予定でございましてので追加いたしました。

国合の修繕費として三〇五円四角これはプラス代あるのは
敷居を直すとかがそういう程度の修繕費でございまして
次に福祉事務所費として旅費一〇円これは、準急
券等の関係で年度末までに約一〇円が必要見込みで
ございまして同額訂正いたしました。

その財源をいたしまして、備品費から一〇八円五更
正したわけでございまして。

九項の福祉事業費で八千円を負担金補助及び
交付金で訂正いたしました。

これは八十九円以上から支給しておりまして
予り養老年金が約八千円不足の予定でございまして
ので、その額でございまして。

次に国民年金事務取扱費と一時的需用費と更正
いたしました。これは県の方で印刷物を一種添えいた
ましたので印刷製本費が二万三千円を更正しました。
これと消耗品費に訂正いたしました。以上

厚生課長（伊藤幸太郎君）

次の九款でございますが、六項の火葬場費三日の
需用費工事清償費といたしまして三千円をお
願ひするわけでございますが、これは焼却炉が
非常に危険な状態でございますので内部の改装を
この際とつてまいりたい。それほかもう一つは前の雇
修繕を行いたいということが一ツは四万円で二ツは八
万円を訂正したわけでございます。

総務課長（山口実君）

次にお二款財産費三千円を追加について申上げます。

これは昨年三月館山市財政調整積立金条例による積立金でござります。

次に諸支出金減額二百万円鳩山荘に繰り出す繰出金を二百万減額したものでござります。

歳出合計前回までの累計額三億六千九百十三万五千六百七円、今回の予算額千四百八十八万四千四百七十七円、合計三億八千三百五十四万四千四百七十七円

次に歳入に移ります。

三款、地方交付税八百五十万円の追加いたしました。今回給付改定によりまして交付税の額を八百五十万円の歳入の内示を得ましたので、今回八百五十万円の追加いたしました。

次に五款分租金及び負担金、保育措置費負担金、千八百六十四円は保育負担者が減少したので

当初予算を同額減額しようとするものでございます。
す。次に七款 国庫補助金のうち三節 児童保護費
負担金でございます。これは児童保護費負担金の
繰繰改正によりまして調整されてきたのであります。
九十八万三千円追加いたしました。次に国庫補助金
のうち三節の公営住宅建設補助金でございます。
これは今回公営住宅補助金が三百八十八万三千円に決定
したので不足額の三万三千円をお願いいたします。
次に入款 県支出金 社会及び労働施設費に負担金
一十八万三千八百七十九円追加いたしました。これは児童保護
費負担金について国の基準が改定になった関係上、県の
補助金をこれに伴って増額されたので十二万三千八百七十
円追加いたしました。

次に八款 市債でございます。一項 市債 庁舎建設

費において当初予算に二千万予定しておいたものと
五百万追加されました。千五百万円に決定されましたの
で五百万追加いたしました。

次に消防債でございます。当初予算で二百万予

備定しておいたのが、消防車購入等の関係上五百万増
額されました。二百万の新止いたしました。

次に社会及び労働施設費の公営住宅建設費でございます
ます。当初予算に三百万予定しておいたのですが、
いまだ、想定の結果百万円減額されました。百万円
に更正されたのであります。

歳入前国庫金の果計 三億六千万三千五百五十六百五円

今回追加更正予算額 千四百百八千八百十円

歳入合計 三億八千三百十五万四千四百十七円

歳入、歳出差引き、税金等 以上でございます。

○議長（山本芳君）

以上で説明を終りました。御質疑疑問いたします。

○〃省（脇田順一君）

別にこれについての質問はございませんが、この際歳入に
ついても一言当局に進言申し上げた方がいいのではないかと、
関連質問でよろしいかとさせていただきます。

○〃省（脇田順一君）

先ほども話しましたが、人件費は増加すると
それが交付金並みに特交財源でカバーできるとか、
できないかはわかりかねない。大体はできると私も
見通しをいたします。それにしても人件費のその
経費の比率というものが、かなりこれから伸びてくる
と思うのがあります。そうなるというのをめく
は特に収入増の問題について考えなければならぬこと

になると思ひますが、そこでここに一つの収入をはかる所
 後と一ツ一例にすぎません。二点あるわけでございます。
 特に税外収入の点で著しい二点を上げたと思ひます。
 それは例えは電程に付する市道の占用料を取ると
 いう問題、これは市条例に年間百三十円ずつ一応
 取ることとある様に条例はなつておるわけでありま
 す。今まで取らなかつたのであります。

この問題は船橋の市役所において議会で問題になり
 まして監査委員にそれを調べ方を付託して、それを
 実行した。また、電燈会社に問合せたところ
 市道を占有してゐる程の数は六、七本ということだ
 であつてあります。船橋の事例です。そんなに
 少いはずはないといふことで五、六、七本があつたやうで
 あります。さか上り五、六等間占用料を取るといふ

ことになりまして東電が、それを払うという事になった。
解決をみたので館山市はそれではないのだけれど、
れども、かなり敷に上つておつたものや、
ありまして。これは助役さんにも話したら取ること
賛成だとおっしゃったけれども、まず市道の限界という
ことも研究しなければならぬ。建設課だけで、
ないというので職員全部で調べてもらって、
上げてきて東電は払うという事になった。

この東電も払うという事。市の方で調べてみれ
ば、過去五年にさか上つて相多な金額になると思
払うという事。おろりです。から船橋と同じような
ところ。お調べになつて電柱の古用料をお取りになつた
らいかかと思つたのであります。

次にこれは福井県の武生市です。館山市に近い

任の都市であります。この市が年間銀行その他を通じてくる利息のことに注意を払うていた。そして、^外というので、えい見つけものということについておるようであります。これは御研究願いたいと思ひます。

これは積立金とかそういう利息収入を除いたもの。削えば交付税その他についても銀行に

おいたんだ金がこちらにきて、そうしてそれが市の収入になる間に期間がある。土曜日あたりにきたという場合には月曜にしようという事で通知が遅くなる。そうすると館山市では無利息のこととして初め通知があった後において利息を計算しておる。そういうところを御研究下さうてやうにしたい。

かく館山市は手数料を銀行に払う契約しておいたようであります。

ところばだんぐと変わつて市の金庫をやったということば
一の大きな名譽であり信用になるというところで市の金庫
たることを希望するといった様なことで金融状況からいへ
かえつて面倒なことをお願いするといふ時勢と違つてきた
細かいことであります。この点に着眼して一つこの際
御研究になつてやつていただきたいと思ひますが、この点
について市長さんのお考えを承けたい。

。市長（田村利男君）

市当局としてましては、今までの気が付かなかつた大きな問題
がございまして御指摘下さいます。非常に参考にな
つて検討する余地が十分あると思ひます。

今後十分検討して銀行とも折衝して取れる段階に
なつていきたいと思います。ただ、

（うい）ことを言つては悪いのですが、今日神戸村の

出張所を廃止という問題が起るおりました。農協が税金を取り扱っていたことに交渉は成立する。神戸村に限らず全部出張所を廃止するというようなことになったわけでございます。

そうしますと決定すれば、そういう場合には神戸村農協へ税金を集めてくれたと三日まであずかる。それからこちらにもつてくると、すると神戸村の農協から利息を取らなければならぬ。御面倒なことをお願いして

農協から利息を取り上げるといふこともどうかと考えられます。これと銀行の場合とは違いますが、そういう金の利息は取るべきだということとを条例で決めることもどうかと思います。これを千葉銀行の問題に止めると十分所残り余地がありますので将来やってみようというわけでございます。

電燈会社の方は、かなり教回折衝——ましておとうへ
一〇〇本になるか、五〇〇本になるかわかりませんが、こちらか
らせめども、教団を出してきません。——か——かうと思
はれるう——いひますが、自然的にいつてきませんので
こちらから市道の税金を出すという方に向けるべく
ように今後努力したいと思ひます。——こういふふうに
存えております。

議

長(山本昇君)

議案第七号、討論者省略原案通り決定いたし
ますに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議

長(山本昇君)

御異議なしと認めます。——よつて本案は、原案通り
決定いたし——た、なかり際

議長（山本昇君）

日程の変更についておはかりいたします。

審議の都合上、日程を八乃至二を一括して議題といたしたいと思ひます。御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）

御異議なしと認めます。さうして日程は変更されま

す。議案第八号乃至議案第二十号を一括して議題と

（書記朗読）

議案第八号

昭和三十五年度館山市特別会計国民

健康保険才入才出追加更正予算

議案第九号

昭和三十五年度館山市特別会計と

音場才入才出追加更正予算

議案わろ号

昭和三十五年度館山市特別会訂休養

施設才入才出追加更正予算

議案わろ号

昭和三十五年度館山市特別会訂公

益貸屋才入才出追加更正予算

。秘書課長(山谷潤祖君)

わろ号議案について御説明いたします。

この追加予算は先ほども申し上げました給与改定に
つきの予算でございます。人件費十五万六千四百圓これが
必要なのでございますが、この財源に人件費十四万七千
七百圓を更正いたしまして残り七千七百圓を備品費を更正いたしま
して充當いたしました。議案わろ号と畜場追加予
算はこれも給与改定の結果六千七百圓の人件費を
要するがそれを訂正いたしました。その財源には
予備費六千七百圓を更正いたしまして財源に充て

ました。次のとおり歳入休養施設追加更正予算
これに五万の歳出の追加をいたしました。この中には
給与改定による人件費は二万八千円計上いたしました。
その他の部分につきましては課長から御説明いたします。
す。おき公益質屋追加更正予算 これは給与改
定による人件費 二万四千五百円を追加計上いたしまし
たが、この財源には事業費の貸付金二万四千五百円
を更正いたしまして財源といたしましてした。

の角上水産課長(羽山房雄君)

一、おき歳入の人件費以外の説明を申し上げます。
歳出のうち需用費で物件費をいたしまして
三節燃料費七万九千八百円追加をお願いいたしまし
た。これは休養施設で使っていたり、石炭がうら
い用り石炭あるいは燃料用りのカバロガス代二万五千

の不足は金を計上いたしました。

次に二四節の印刷製本費三百七十四圓追加をお願いいたしました。予算残と合せまして七百五十四圓でパンフレットを約十分印刷いたしました。訂上いたしました。また、五節の光熱水費、これは電料気料金をございまして、これも二ヵ月分不足いたしましたので訂上いたしました。二四節工事請負費におきまして五万円の追加をお願いいたしました。

このうち濁水期において井戸水の不足を生じましたので水利のきくところに井戸を新設いたしました。三千五百圓の追加をお願いしたわけをございまして

そのほか工事請負費をいたしまして防虫用の銅戸約千五百圓計上いたしました。なおその財源といたしまして先ほど一般会計の説明の際に繰出金

の三百円の更正をいたしまして、この更正財源を
ごまかすのが今回この支出金といたしまして県の
補助金が国民宿舎施設費補助として三百五十万
参りますので、このうち一般会計からただいまご
繰り出されておりました四百八十八万七千五百円が
三百万円を一般会計へ繰り入れたい。
こういう関係で今回歳入の更正をいたしまして、
以上でございます。

議長（山本 昇君）

御質疑ございませんか。——な——と認めます。
一稿上げました。——た議案第八号乃至二号は
討論省略原案通り決定いたします。
御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本 昇君）

御異議なしと認めます。よろず本案は

原案通り決定いたします。

以上をもちまして本日の議案全部議了いたします。
また、以上で本臨時会を閉会といたします。

五時三十分 閉会

昭和三十三年二月三日

右会議の次第を録しここに署名す。

館山市議会議長

同 署名議員

同

山本 昇
脇田 順一

署名 佐々木

一 創山寸譜会

